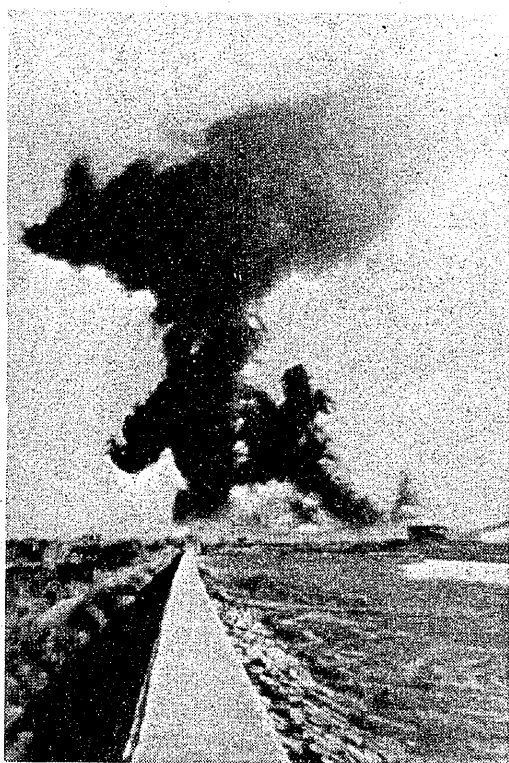


十一・九大災害 二十一周年

あの目を忘れまい

訴え



あれから二十一年……。
昭和三十八年十一月九日、三池 ていき起された炭じん爆発は、

一瞬にして四百五十八人の尊い労働者の生命を奪い、八百三十九人のCO中毒患者を出す大惨事となり、私たちに与えられた屈辱の日となり、また、炭鉱三池で三井鉱山の手によつていき起された炭じん爆発は、戦後最大の労働争いとなり、日本でも唯一のエネルギー資源である石炭産業を崩壊に導く石炭政策を強行する政府と資本は、三池闘争の終結と三池労働組合の分裂を最大限に利用し、過酷な合理化をすすめて、それが人命を犠牲にする保安無視となり、ついには大災害をひき起こしたのです。

政府と資本の石炭切り捨て政策に対決してたたかいた三池闘争のあとの徹底した労働強化と、保安無視の合理化の中でひき起こされた炭じん爆発は、戦後最大の労働争いとなった。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

元の元気な体を返せ

『CO家族の会総会』開く 昼食を共にして懇談も

が出席され、田口書記長のあいさつを受け、原告団から小川田長が出席して裁判の経過と今後の決意を述べられました。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

三井鉱山は、この大災害から四年目の四月二十八日も同閉山にみられる石炭産業の崩壊とすべからざる事態です。

十月十四日第十九回のCO患者家族の会の定期総会をひらきました。



総会を終えて、久しぶりに会った会員同志の間で話しがはずむ。(はら会館で)

武田潮さんが逝去
大牟田市立病院で入院加療中の、三日夜逝去されました。心から哀悼の意を表します。

- 選ばれた役員
- 会長 石原 マサ子
 - 副会長 塚本 栄子
 - 会計 清水 米子
 - 役員 猿渡 ハギエ
 - 塚本 みさえ
 - 江口 キヨ子
 - 池畑 小夜子

三井を殺人罪で告訴
有明鉱の遺族との連帯を

小川 紘 志

二十年のたたかい

CO闘争の発展と裁判闘争の勝利のために

内容紹介

- CO裁判の現状について
- 精神医学者からみたCO患者
- 炭鉱のいたみわがいたみに
- 三井資本の大罪は消えず

一大災害から20年一
三池のCO闘争を知るために、ぜひこの1冊を

体裁 B5版 グラビア入り 八十八ページ
頒価 千円(送料 二百四十円)
発行 一九八三年十一月 残部僅少
振り込みの場合は、福岡労金大牟田支店
二八三九〇三〇三をご利用下さい。
まとめていただきますと、送料は不要です。